

リレーエッセイ

vol.56

— 広島に想う —

広島県呉市で生まれ、小学校から中学校まで広島市内で育ちました。

正月になると呉の祖父宅に遊びに行き、酔っ払った祖父から何度も何度も同じ話を聞かされていましたが、戦争についてはほとんど聞いたことがありません。祖父の妹が原爆で亡くなったことを語りたくなかったのでは?と母から聞いています。

高校で上京し、夏休みや冬休みになると同級生や後輩たちが広島に遊びに来るようになり、その度に原爆資料館に連れて行きました。人間の残酷さ、愚かさ、非情さ、このような感情を歳を重ねるごとに、より痛感していった時期でした。

2000年9月に19歳でアメリカに留学し、2001年3月に早々と帰国しました。その年の9月にアメリカをテロという脅威が襲いました。同じタイミングで留学していた仲間に乗っ取られた飛行機が突っ込んだワールドトレードセンターの近くに住んでいました。彼女が後日無事に帰国した際に話を聞くと、日本のテレビで報道されていた内容より本当に悲惨な状況だったようです。私は自分の運に感謝すると同時に、テロで亡くなられた方の無念の想い、暴力に対する怒り悲しみ、そして何もできない自分の無力さを痛感したことを今でも覚えています。

音楽家は政治に口出しすべきではない、というのが私の持論ですが、ロシアとウクライナの政治家たちには過去から学んで武力に訴える事だけは回避していただきかった。音楽家の立場から見ると、ロシアもウクライナも素晴らしい作曲家、演奏家を輩出している国です。そのように芸術性の高い御国柄であるにも関わらず、芸術と真逆の破壊行為をするというのは残念で仕方ありません。

突然話は変わりますが、コンサートを聴いている間、皆様はどのような感情になられていますか?少なくとも、日頃のストレスや嫌なこと、イライラなどというネガティブ

長原 幸太

Kota Nagahara

ヴァイオリニスト



な感情はおさまっていますか?音楽家にできることは多くはないと思いますが、少なくともひと時の落ち着き、癒しの時間を差し上げられているのかな?と感じています。

5歳でヴァイオリンを弾き始めてからしばらくは、ただただ弾くのが楽しかったように思い出されます。上記の高校時代くらいから、いらしてくださっているお客様の為に頑張って演奏していました。今は来場いただいたお客様はもちろんのことですが、来たくても来れない事情のある方々の為にも良い演奏を続けていきたいと思って演奏活動をしています。

「ヒロシマ」という街は世界中で認知されています。しかし、如何にして広島が復興してきたか、また今の広島が素晴らしい街になっているという事は認知されていません。ドイツで仕事をした際にこう聞かれました。

「幸太は日本のどこで生まれたの?」

「広島だよ」

「広島にはオーケストラがあるの??」

「素晴らしいオーケストラがあるよ!!」

「そうなんだ」

音楽家として広島人として広響を平和のシンボルとして世界に知らしめたい!と強く思っています。私は無力ですが、音楽には力があると信じています。世界中の人たちの心が少しでも和らぐよう、戦争紛争のない世の中が来ることを祈って。

Profile

長原 幸太 (ながはら・こうた)

広島出身。安田学園安田小学校、広島学院中学校を卒業後、東京藝術大学附属音楽高等学校を経て同大学入学。在学中、全額スカラシップを受けジュリアード音楽院へ留学。現在は、読売日本交響楽団コンサートマスターを務める他、ソリスト、室内楽奏者として国内外で活躍中。これまでに東京藝大、相愛大の非常勤講師、各種セミナーの講師を務める等、後進の指導も行っている。

次回は 広島日野自動車(株) 取締役相談役
広島城北学園 理事長の 上野 孝史 様です。